

## 17. 木材価格の予測

### 1 試験担当者

経営部、経済研究室：野村 勇、橋本 智

### 2 試験目的

外材も含めたわが国木材需給のモデルを解明し、計量的にその構造を決定することによつて長期および短期の木材価格を予測する。

### 3 昭和43年度の経過とえられた結果

- 1 単一方程式モデルに取入れるべき説明変数としては、従来鉱工業生産活動指数のみであったが、説明力が弱まつてきたので、非木造建築着工面積・木造建築着工面積および外材輸入量の3つを説明変数とし、それぞれのタイム・ラグについても検討を加えた。
- 2 連立方程式モデルについては、理論的に必要とされるデータがまだ公表されていないなどの理由で、同時決定的にモデルの係数パラメータを決定する段階まではいつていなかつて、現時点で入手できる外生変数を説明変数とする単一方程式モデルを作製し、最小自乗法によつて木材価格の予測をおこなつた。

短期の木材価格予測式としては、

$$P_t = f(B_{t-5}, H_{t-5}, F_{t-5})$$

長期の木材価格予測式としては、

$$P_t = f(I)$$

ただし、Iは政府、民間を合わせた設備投資額両式ともほぼ90%の重相関関係が維持されており、短期では5ヶ月先まで、長期では経企庁の中期経済計画などと結合させることによつて5~6年先まで予想できる。

### 4 昭和44年度の試験計画

- 1 連立方程式モデルについて、モデルの設計の仕方と因子の取り入れ方を検討するため東北地方林業を実地調査する。
- 2 単一方程式モデルについては、外材輸入がどのような形で木材価格に影響を与えているかを富山および北九州地域を調査し検討する。